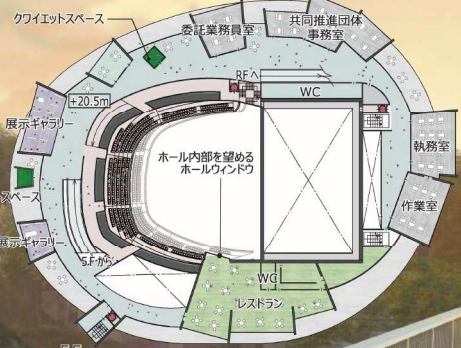


# みちの庭 “メモリアルガーデン”



ホールを取り巻くガーデンの中に様々な活動が離散しながら柔らかくみちでLinkする計画を目指します。  
みちでつながる関係性・余白により「環境と建築がつながる」「人と人がつながる」、「日常と非日常がつながる」施設を実現します。



内外の連続を活かした環境・気候に寄りかかると記憶装置としての空間的アプローチ（雨の中で記憶できる空間）（夕日・偏光ガラス越しに眺めながら仙台区の道並みを感じられる）

## □ 杜や水と暮らす都市文化を未来に継承する河岸段丘の建築<景観・自然との Link>

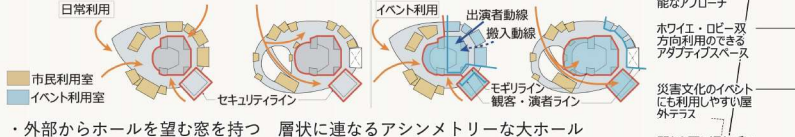
- ・仙台区の<ブルーインフラ>広瀬川と<グリーンインフラ>青葉山の接続を象徴するエリアデザインを提案。
- ・段丘面を思わせるテラスが、河川敷から建物屋上まで連続し、市民活動が建築を超えて地形レベルで立体的に連続する計画。（万一の広瀬川の洪水時にも河川敷からスムーズに避難可能）
- 市民活動をつなげるホールをゆるやかに取り巻くループ<人と人・人と文化の Link>



大きな庇が施設利用者・市民・観光客を歓迎する 西側路側に活動室を設置。道路から内部の活動を垣間見れる計画

## □ 活動によりトランスフォームする運用形態<日常と非日常の Link>

- ・日常的にホール背面の楽屋ゾーンまで回遊でき市民活動が広がる計画。施設自体に各方面から利用者が出入り・通り抜け可能な開かれた施設。
- ・ボックスの配置で生まれるみちのクラックを利用してイベント時は部分的にセキュリティを計画。観客/演者、有料/無料のエリアを明確に分離。

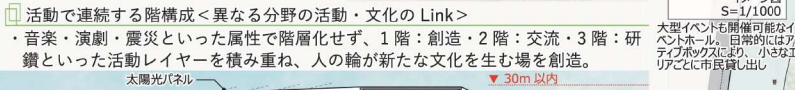


## □ 外部からホールを望む窓を持つ 層状に連なるアシンメトリーな大ホール



## □ 日常の中に差し込まれた災害文化の伝承<日常と災害の Link>

- ・ホワイエ前・メインアプローチ上に震災メモリアルを中心とする災害文化ギャラリーを設置。日々の活動の中で震災の記憶・記録に触れ合える計画。
- ・小さな災害文化ギャラリーを施設各所に配置。共用部と連携したイマージシアター利用・市民貸し出しによる自主企画展などにも柔軟に対応可能。

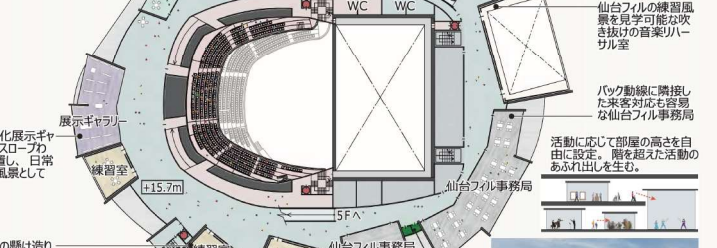


## □ 活動で連続する階構成<異なる分野の活動・文化の Link>

- ・音楽・演劇・震災といった属性で階層化せず、1階：創造・2階：交流・3階：研鑽といった活動レイヤーを積み重ね、人の輪が新たな文化を生む場を創造。

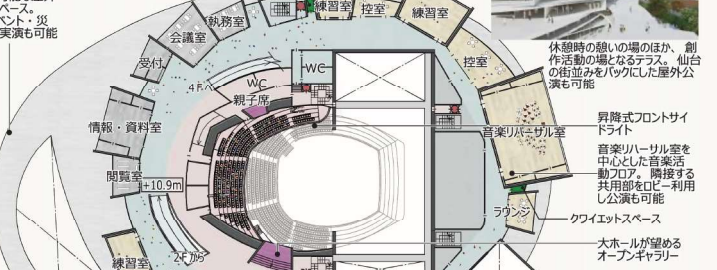


## □ 仙台区の練習風景を見学可能な吹き抜けの音楽リハーサル室



バック動線に隣接した来客対応も容易な音楽リハーサル室

## □ 休憩時の憩いの場のほか、創作活動の場となるテラス。仙台区の街並みをバックにした屋外公演も可能



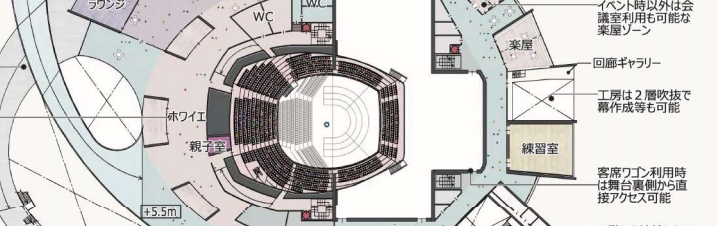
休憩時の憩いの場のほか、創作活動の場となるテラス。仙台区の街並みをバックにした屋外公演も可能

## □ 市民活動スペースと一体のホワイエ。目的外的活動が空間を共有することで、出会いが生まれる空間



市民活動スペースと一体のホワイエ。目的外的活動が空間を共有することで、出会いが生まれる空間

## □ イベント時以外は会議室利用も可能な楽屋ゾーン



イベント時以外は会議室利用も可能な楽屋ゾーン

## □ 2階にも接続したアンプリアター。大型イベント時は建物のテラス全体が客席となる



2階にも接続したアンプリアター。大型イベント時は建物のテラス全体が客席となる

## □ 駅利用者も気軽に利用できる大きな軒下空間。キッチンカ利用者のラウンジとしても活用



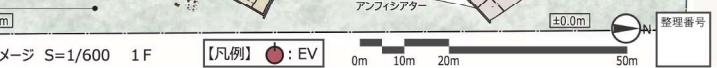
駅利用者も気軽に利用できる大きな軒下空間。キッチンカ利用者のラウンジとしても活用

## □ 2層吹き抜けのガラス張りの舞台リハーサル室。2階ギャラリーも設置し小規模な公演でも利用可能



2層吹き抜けのガラス張りの舞台リハーサル室。2階ギャラリーも設置し小規模な公演でも利用可能

## □ 南側遊歩道と一体的に外構を整備。遊歩道からもどこからでもアクセスしやすい計画



駅利用者も気軽に利用できる大きな軒下空間。キッチンカ利用者のラウンジとしても活用

南側遊歩道と一体的に外構を整備。遊歩道からもどこからでもアクセスしやすい計画

